

大地震に備えた地域内の大学との連携

特色のある内容

柘野学区自主防災会では、今年5月に京都産業大学との地域協定が結ばれたことから、今年度の学区防災訓練において、京都産業大学からの物資搬送訓練が実施されました。

学生達は、京都産業大学が保有する大量の飲料水を搬送するだけでなく、救助訓練にも参加しました。地域との連携に積極的に働きかける学生達の姿は、学区民にいざというときに頼りになってくれる、頼もしい姿に映りました。



特記事項

- 地域協定の内容は、地震などの大規模災害が発生した際、避難場所、備蓄している食糧・飲料水、保険センターで行う医療サービス、被災状況の情報等の提供を京都産業大学が住民へ行うものです。
- 今年度の防災訓練には、京都産業大学の学生をはじめとする京都学生消防サポーター9名が救出・救護訓練等に参加しました。

地元大学や子供達を防災力に

特色のある内容

松ヶ崎学区自主防災会では、学区総合防災訓練の開催に合わせて、地元大学2校のグラウンドを災害時に緊急避難場所として使用することができる協定を締結しました。訓練終了後、調印式を式典として行い、広く学区民に周知しました。

2校の大学グラウンドは学区のほぼ中心に位置し、広大な敷地を有することから、災害時に活用できるよう検討を重ね、自主防災会の粘り強い努力と大学側の協力により今回の協定締結に至りました。

今後は、大学生の学区総合防災訓練への参加も取り入れるなど、より多くの学区民に防災の大切さを訴えていく計画です。



特記事項

- 自主防災会長と大学関係者が何度も協議を重ねた結果、今回の協定締結に至ったもので、今後、学区民と大学との共存と協力関係を築くきっかけとなる大きな成果でありました。

地域と事業所の災害協力による支援体制の推進

特色のある内容

永松学区自主防災会では、京都市が推進する「災害に強いまちづくり」の趣旨に基づき、平成12年に株式会社高島屋との間で、防災に関する相互の応援協定が定められています。今年度の防災訓練についても10名の高島屋社員が本訓練に参加しました。

訓練当日は、高島屋からの救援物資（飲料水、乾パン、その他の物品）を搬入し、当自主防災会役員とともに救援物資の仕分け、配布などを支援した後、すでに学区民が実施している個別訓練に参加しました。

個別訓練では、学区民への応援に駆けつけたとの想定で、主に消火訓練としてバケツリレー及び消火器による消火活動を学区民と合同で重点的に実施しました。本訓練を通じて地域と事業所との強い絆が確認されました。



特記事項

- 事業所と自主防災会の双方にとって納得できる効果的な行事になるように、両者との計画折衝及びアドバイスをを行うことがポイントでした。

より強固なネットワークをめざして

特色のある内容

光徳学区では、近隣の大内、七条第三学区を含めた3学区が、地元企業である京都市リサーチパークと平成12年に自主防災支援ネットワークを締結し、大規模地震に備えて合同で防災対応力の向上に努めているところですが、平成20年も7月6日に京都市リサーチパークにおいて、合同の防災訓練を実施しました。

- 内容は、
1. 避難場所提供訓練
 2. 防災クイズ
 3. 救出救護訓練

等を行いました。

特に救出救護訓練では3学区の混成メンバーにより、リサーチパークに配置された器材を使用して真剣に訓練に取り組みました。今後も光徳学区単独の総合防災訓練と併せて、ネットワークの合同訓練も継続して実施し、学区の垣根を越えた、より強固な防災組織づくりをめざしていきます。



特記事項

- 当初ぎこちなかった合同訓練も、交流、回数を重ねるごとに、コミュニケーションが図られ、今年はスムーズな訓練が行えるようになり、効果は確実に上っているものと確信しています。